



開校明治七年  
開校146年目

# 宗岡小だより

学校教育目標

**自分がすき・友だちがすき・町がすきな宗岡の子**

育てる子供像 地域を愛し、誇りをもって、地域に貢献する子供

## めざす学校像

「安全・安心できれいな学校」  
「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」

令和2年11月号

志木市立宗岡小学校

児童数 456名・学級数 18学級

住所 志木市中宗岡3-1-1

TEL 048-471-0307

## 11月の生活目標

友達に思いやりを  
もとう

- ・相手の気持ちを考えよう
- ・友だちのよいところをみつけよう

## 秋の日はつるべ落とし

校長 石田 賢一

「秋の日はつるべ落とし」という諺（ことわざ）があります。

「つるべ」とは、落語家でお笑いタレントの笑福亭鶴瓶さんのことではなく、右の図にある滑車の先に桶を結び桶の重さを利用して井戸の水を汲み上げる用具です。

どうして「秋の日」は「つるべ落とし」なのでしょう。『美しい日本語の辞典』には、「秋の日は沈み始めると、たちまち落ちることのたとえ。縄や竿の先につけて井戸の水を組み上げる桶である釣瓶（つるべ）を井戸に落とすと、急速に垂直に落ちていくところからのことば。」とあります。

江戸時代以前は多くの場所が日没後、明かりの無い真っ暗な世界でした。この諺は、すぐに夜が訪れる秋には、日が沈む前にやるべきことをやりなさいという教訓を表しているのでしょう。

現代では、この諺は「やるべきことを早く済ませる」という意味よりも「防犯」の観点で語られることが多くなっています。埼玉県警察の資料によると子供への声掛け事案が多い時間帯は、午後3時から午後6時とのことです。下校後に外で遊んで帰宅したり、塾や習い事に出かけたりする時間です。不審者は、周りが明るく人目があるときには子供に声を掛けたりすることは非常に少ないです。周りが暗くなり、人目が気にならなくなると子供に声掛けするようになります。まさに「秋の日はつるべ落とし」は不審者にとって都合がよい季節ということになります。特に11月は日没から暗くなるまでの時間が一番短いそうです。

埼玉県警察の地域安全ニュースによると不審者から子供達を守るためには、「ながら見守り」が有効だそうです。「ながら見守り」とは、買い物や犬の散歩、庭の花への水やり・手入れ、登下校時間帯に玄関先に出るといった日常生活をしながら「子供の後をつけている不審な者はいないか」などの防犯の視点を持ち、子供の安全を見守る活動です。既に宗岡小学校では保護者の方や地域の方にこのような見守り活動を行っていただいておりますが、すぐに暗くなるこれからの季節では更なる御協力をお願いいたします。

また、一番の予防策は子供自身が不審者から身を守る方法を身に付けて実践することです。実践してほしい内容は次の4つです。これらの内容は、学校においても繰り返し子供達へ指導してまいります。是非御家庭においても繰り返し御確認いただきますようお願いいたします。

### 1、一人にならない

一人にいる子供を不審者は狙います。登下校の際などもできるだけ一人にならないようにする。

### 2、知らない人についていかない

「お菓子をあげるよ。」等の言葉で、子供を誘う不審者もいる。知らない人には絶対についていかない。

### 3、大きな声で助けを呼ぶ

「怖い」と感じたら、大きな声で周りの大人に助けを求める。

### 4、出かける時は、家族に知らせる

「誰と・どこで・何時まで遊ぶか」を、家族に伝えてから出かけることを習慣にする。

